

CV-22 オスプレイの県内訓練場使用に断固反対する意見書

沖縄防衛局から平成27年10月14日入手した空軍特殊作戦コマンドのCV-22の横田飛行場配備に関する環境レビューの中から、2017年から横田基地に配備する米空軍仕様の垂直離着陸輸送機CV-22 オスプレイが沖縄県内の訓練場を使用することが記載されており、県民に大きな衝撃を与えた。

日本政府は同型機の事故率が普天間基地に配備されているMV-22 オスプレイの3.4倍高いと公表している。今後、このような危険極まりない輸送機が嘉手納基地の米空軍第353特殊作戦群、トリイ通信施設の米陸軍特殊作戦部隊が駐留しているこの地域で、ほとんどの施設が備わっている嘉手納飛行場への飛来が常態化することが想定できる。

ちなみに、平成24年12月時点における県内米軍基地事故発生件数540件中嘉手納基地が358件(66%)を占め、さらに嘉手納弾薬庫、陸軍貯油施設が隣接し、これら軍事施設に取り囲まれ「世界で最も危険な基地」と日々向かい合っ暮らしている町民にとっては言語道断であり、速やかな撤回を強く求める。

嘉手納町議会はこれまでも平成25年1月11日、同年8月9日に同型機の嘉手納基地配備反対を表明し、建白書の実現に向けて最大限の行動を行ってきた。その矢先の通告に対し激しい怒りを禁じえない。

負担軽減策として基地の整理縮小が進む中、そのシワ寄せが間違いなく嘉手納基地の機能強化に繋がり、負担はますます増加している。基地負担は国民全体の問題であり、特定の自治体だけに負わすものではなく、全体で応分の負担をすべきである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から、CV-22 オスプレイの県内訓練場の使用に断固反対し、下記事項を強く求める。

記

1. CV-22 オスプレイの県内訓練場使用計画を撤回し、配備を中止すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成27年10月26日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣
外務省特命全権大使(沖縄担当) 沖縄防衛局長 沖縄県知事

CV-22 オスプレイの県内訓練場使用に断固反対する抗議決議

沖縄防衛局から平成27年10月14日入手した空軍特殊作戦コマンドのCV-22の横田飛行場配備に関する環境レビューの中から、2017年から横田基地に配備する米空軍仕様の垂直離着陸輸送機CV-22 オスプレイが沖縄県内の訓練場を使用することが記載されており、県民に大きな衝撃を与えた。

日本政府は同型機の事故率が普天間基地に配備されているMV-22 オスプレイの3.4倍高いと公表している。今後、このような危険極まりない輸送機が嘉手納基地の米空軍第353特殊作戦群、トリイ通信施設の米陸軍特殊作戦部隊が駐留しているこの地域で、ほとんどの施設が備わっている嘉手納飛行場への飛来が常態化することが想定できる。

ちなみに、平成24年12月時点における県内米軍基地事故発生件数540件中嘉手納基地が358件(66%)を占め、さらに嘉手納弾薬庫、陸軍貯油施設が隣接し、これら軍事施設に取り囲まれ「世界で最も危険な基地」と日々向かい合っ暮らしている町民にとっては言語道断であり、速やかな撤回を強く求める。

嘉手納町議会はこれまでも平成25年1月11日、同年8月9日に同型機の嘉手納基地配備反対を表明し、建白書の実現に向けて最大限の行動を行ってきた。その矢先の通告に対し激しい怒りを禁じえない。

負担軽減策として基地の整理縮小が進む中、そのシワ寄せが間違いなく嘉手納基地の機能強化に繋がり、負担はますます増加している。基地負担は国民全体の問題であり、特定の自治体だけに負わすものではなく、全体で応分の負担をすべきである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から、CV-22 オスプレイの県内訓練場の使用に断固反対し、下記事項を強く求める。

記

1. CV-22 オスプレイの県内訓練場使用計画を撤回し、配備を中止すること。

以上、決議する。

平成27年10月26日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

駐日米国大使 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官
在沖米国総領事 嘉手納基地第18航空団司令官 沖縄県議会議長